

我ら、山県市 地域おこし 協力隊！⑧

おく だ まさ き
奥田 薫樹



花作りをもう一度したい！

奥田薫樹さんはそんな思いを胸に昨年5月、地域おこし協力隊として大桑地区に赴任し、四国山香りの森公園香り会館を管理している。

出身地は静岡県沼津市で、幼少時代は父の仕事の関係で全国各地を転々とした。小学校4年生から大学2年生まで神奈川県逗子市で過ごし、大学は文学部。卒業後は都内でサラリーマン生活を送り、ここまでは全く花に関わらず過ごしてきた。ところが34歳の時、千葉県の花農家で働くことになった。

「最初は、どうして花を作らなければならないのだろう」と感じたこともあったという。花農家で働く条件の一つに大学の農学部に入学することがあり、花を育てる楽しさを日に日に感じていくことになる。「交配をして花を作り出すことに楽しさを感じるようになった。そしてそれを育てていくことが本当に楽しかった」。そう思った矢先、花農家を去ることになる。

「実家の家業をやったり、以前勤務した会社からの誘いがあつたりしましたが、どうしても花の仕事や園芸をしたいと思います。私自身は、どこでもいいからそれができる場所を探していました」と語る奥田さん。他の自治体の地域おこし協力隊として面接を受け内定をもらっていたとき、山県市の募集を見た。「その自治体は地形的に花の育成には向いていないことがわかっていたので、山県市を応募しようと思ったんです」。面接後、市職員から現地を案内されるとき「香り会館を自由な発想で生かしてほしい」と言われた。奥田さんは内定をもらっている他の自治体を断り山県市へ来た。「四国山には立派なハウスがあること」「自由な発想で」という言葉が決め手となりました。

2月上旬、ハウス内のポットにペチュニアの種を蒔いた。花農家でも生産した花だ。「四国山香りの森公園の売りであるレモンタイムやハーブをきっちり育て、訪れた人に香りを楽しんでもらいたい。実際に咲くかどうか本当のところ自信はないのですが、植えたペチュニアを育てて訪れた人の目も楽しませたいと思います」。四国山が持つポテンシャルと奥田さんの自由な発想が交配して、新たな「花」が咲くかもしれない。

編集後記

表紙で紹介した高富中生徒が考案した学校給食メニューの取材で久しぶりに給食を食べました。久しぶりと言ってもたぶん30年弱ぶりですが、当たり前のような感想ですが、「学校給食は今も昔もおいしい」です。取材に訪れた報道関係者と一緒に食べましたが、「私の学校は教室で食べた」とか「あのメニューが好きだった」などとそれぞれの「思い出」があるようでした。私自身、「給食は小中学校の思い出の大きな部分」を占めるのだと、この歳になり改めて感じました。

2月1日に、市の情報ポータルサイト「YAMAGATA ABASE」を開設しました。コンセプトは「山をもう一度、デザインする」。山の楽しみ方といえば「登山」や「BBQ」など鉄板メニューが存在します。確かにそれはそれで楽しい。しかし、まだ開拓していない、楽しみ方があるのではないかと…「一見関係なさそうなコンテンツを山と結びつけることで、思いもよらない楽しみと出会えるかもしれません。そんな山でこそ得られる「ワクワク」、山県の山で改めてデザインし、発信していきたい」と思います。

報 やまがた

発行 山県市
〒501-2192
岐阜県山県市高木1000-1

編集 企画財政課
TEL 0581-22-6825
FAX 0581-27-2075

URL <http://www.city.yamagata.gifu.jp/>
E-mail info@city.gifu-yamagata.lg.jp

R70 VEGETABLE OIL INK
この広報紙は再生紙を使用し、大豆油を含む植物油を使用したインキで印刷されています。

UD FONT
by MORISAWA